

運動会

誓いの言葉

白団団長：山川 晃生くん
赤団団長：松崎 惺来さん



ソーラン節



大玉転かし

組体操



1・6年巧緻走

地区対抗リレー



有明音頭

全員リレー



学年PTA活動

一年生

「最初で最後の十三人の思い出づくり」

学年委員 後藤 里美 高濱 恵美

岡田 裕美 堀川 亜由美

七月二日に浦和小学校体育館で親子混合ドッジボールと校内宝探しゲームを行いました。

ドッジボールでは、子ども同士の試合や親子対抗、日頃うつぶん晴らしに？男女対抗などをしました。前日に体育の授業で行われた転がしドッジボールの影響で、投げるのではなく『転がす』というかわいいハプニングがありました。

宝探しゲームでは、許可を頂き、いろんな教室や廊下などに各班それぞれ違ったキーワードが書かれたカードを隠し、子供たちに探してもらいました。小学校に入学して三ヶ月、教室の名前や場所を覚えていくのかな？という気もちがあり始まった宝探しゲームではありましたが、スタートの合図がなると一斉に校内へ走り出しました。最後のキーワードとなるカードを貼ったお父さんを追いかける姿や、ゴール前でのパン



食い競争はとても楽しそうでした。先生方、保護者の皆様のご協力を頂き、無事に終える事が出来たと思います。

三年生

「浦和小学校最後の学年活動」

学年委員 小森 恵里奈 岡田 浩子

江口 智美 松本 千春

十月二十九日、少し遅めの学年活動

「親子で楽しむボーリング大会を行いました。子供たちはボーリングができる嬉しさを体いっぱい表現して、ボーリングが初めての子供たちも、周りを見ながら靴とボールを選び、いざゲーム開始。早々から、かけ声や歓声が上がりました。投げる人を大きな声で応援する子供、スコア画面を真剣に見ている子供、ボールをふいたり、重さを変えたりする子供、いろんな個性が見られました。保護者の皆さんも、何十年ぶりのボーリングで「明日は筋肉痛だ」と笑っている汗をかきました。



今回の活動を通じて、子供たちの最高の笑顔が一番のごほうびとなり、子供たちの成長を実感でき、保護者同士の親交もより深める事ができました。

五年生

「親子ともに楽しんだ学年活動」

学年委員 柴田 隆 濱崎 泰法

小見田 哲郎

本学年は夏休みの終わり（八月二六日〜二七日）に一泊二日で学年活動を行いました。

明け方より、今年一番の凄まじい雷雨に活動中止も頭をよぎりましたが、初日の午前中を小学校の体育館での活動に、宿泊をテントから赤崎地区コミュニティセンターへ切り替えて強行開催しました。十時頃から天気も持ち直し、予定通りの活動を行うことができました。先ず残りの午前中、四郎ヶ浜ビーチで遊泳、昼食をオレンジハウスにて済ませて、休憩の後メーインベントのマリン体験。シーカヤック、漁船でのクルージング、ジェットスキー、

手漕ぎボート、子供も保護者も思う存分楽しみました。

ある保護者が途中、〇万円もする眼鏡を海中に落としてしまい大捜索をしましたが残念なことに発見できず、今も海中で睨みを利かせていることでしょう。夕方は、夕食の集い（バーベキュー）、スイカ割り、さざ波の湯にて入浴を済ませ大花火大会、宿泊先へ移動後、怖いDVDをプロジェクトターで観て就寝しました。



二日目は活動をしたビーチのゴミ拾いをした後、子供たちが自分たちで準備をし朝食をすませました。片付けを全員で済ませ無事に活動を終了することができました。子供以上に保護者も楽しんだ学年活動になりました。

来年は統合小学校となりますが、今年のような学年活動が来年も出来て良い思い出の一ページが増えることを期待しています。

六年生

「六年生の学年活動」

学年委員 赤城 久美子 河内 知子

松崎 由美子 三代 かつり

福田 千晴

六年生の学年活動は、五年生の時と同様、キャンプを行いました。夕方から集まり、バスケットボールやソフトボールを行いました。お父さんやお母さんと試合をしたり、男子対女子で試合をしたりしてとても楽しい体験になりました。

その後上津浦コミュニティセンターに移動し、カレーライスとスイカを美味しく食べました。また、夕食後には正覚寺へ肝試しに行きました。お父さん達がおぼけ役で驚かせてくれて、みんな怖がりながらも楽しんでいました。肝試しから帰ってきて行った花



火もみんなが笑顔でとても楽しそうでした。

次の日の朝は、五時半に起床し、軽食を済まし、片付けをして廃品回収に行きました。学年活動を通し、子供たちの成長を強く感じる事が出来ました。

森先生をはじめ、保護者の皆様にはお忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

子どもたちの学び

「水俣に行つて学んだこと」

五年 島田 椿女



はじめに水俣病資料館に行きました。初めて知ったことは、五月一日が水俣病が確認された日で、慰霊式をやっている日だということでした。また、資料館には薬の袋がありました。特に粉の薬が多かったです。薬は症状をやわらげるために飲んだものです。別のコーナーでテレビの画像を見たら、手が固まっていたり、習字で「まなざし」と書いていらつしやいました。別のテレビの画像では、つらくて、苦しくて、かべをかきむしった後のきずがありました。

次に、語り部の前田恵美子さんのお話を聞きました。生まれたころは元気だったけど、三才から急に歩けなくなったり、言葉もうまくしゃべれなくなったりしたと聞いてびっくりしました。前田さんは十才で小学校に入学したと聞いておどろきました。そのわけは親が学校に行ったらいじめられると思って行かせなかったそうです。水俣に行っているんだことが知ることができたので、これからの学習に生かしていきたいです。

「修学旅行で学んだこと」

六年 吉本 奏汰

修学旅行での学習では、永井博士の「如己愛人…己のごとく人を愛せよ」の生き方・考え方が強く心に残っています。また、戦争の悲惨さに改めて気づくことができました。

当時とは違い、今のぼくたちの生活はとても平和で豊かだと思いました。また、学校に毎日通ってみんなと笑いながら話している自分はとても幸せだと思います。



これからは、永井博士のように周りの人を大切にできる人になりたいです。そのために毎日笑顔を絶やさずに、困っている人に声をかけたり、自分から積極的にあいさつをしたりして生活していきたいと思っています。そんな自分になれるように頑張っていきたいです。

お知らせ

※例年行っておりまして、一月のリサイクルびん回収は、本年度はありません。



来年もよろしく
お願いします。

